会　議　録

会議の名称	令和４年度第６回富士見市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和４年１２月１２日（月）午後７時００分～８時３０分
開 催 場 所	中央図書館　視聴覚ホール
出　席　者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、渡邉知広委員、吉田和江委員、冨士伸委員、事務局
欠　席　者	内海幸一郎委員
公開・非公開	公開（傍聴人　０人）
会 議 次 第	１　議長あいさつ ２　協議事項 ３　その他
会 議 資 料	・定期刊行物
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容
１　議長あいさつ 【議　長】　今日は第３３期では１０回目の会議となる。これまで世代をこえたつながりづくりについて話し合ってきたが、今後、提言書として形にしていければ。 ２　協議事項 【議　長】　提言書の構成案について、事務局より説明を。 【事務局】　提言書の流れとして、以下のように考えている。 １　はじめに ：問題提起にあたる部分。特定の世代の方の、地域活動への参加が少ないことについて、それは担い手不足という問題ではなく、特定の世代だけの活動になってしまっていて、世代をこえたつながりが築けていないからではないか。世代をこえたつながりを築くことができれば、諸活動で多く指摘される担い手不足の問題も解決することができるのではないか。では、世代をこえたつながりをどうしたら築くことができるか、この提言書で検討するということを述べる導入の部分になる。 ２　つながりの必要性について ：社会教育委員のみなさんが考えるつながりの必要性、つまり社会教育の観点から考えられるつながりの必要性について述べる部分。前回までの会議で、各委員からつながりの必要性について様々なご意見をいただいた。なるべく反映できるように作り上げていきたいが、例えば人に「教えて」と頼ってもらうことで知る喜びや、他者から感謝されることにより得られる気づきといったものは、自己成長という観点から、つながりの重要性を述べることができると考えている。また同じ境遇の人とつながりを持つことで理解し合えるということ、そしてそこから得られる安心感については、前回の会議で安心感を得るだけではなく、という話もあったが、他者との相互作用の中で得られるつながりのメリットであると整理できるのではないか。また、次の世代に活動をつないでいく、という意見があった。地域のため、人のためになっているすばらしい活動であっても、特定の人だけで行っていると、そこで終わってしまう。そうではなく、例えば子どもを巻き込むなど、世代をこえたつながりをつくる必要がある、という意見があった。これはまさに地域づくりという言葉で整理できるのではないかと考えている。また、富士見市生涯学習推進計画の記述について触れるか、検討している。富士見市の計画の中においても、「心豊かに暮らせるまちづくり」の実現のため、人と人とのつながりを築いていくとしている。社会教育の観点からも重要であるが、市としてもつな

がりづくりは推進しているのだ、ということを述べてもいいかもしれない。

3　富士見市の現状について

：富士見市が令和２年度に実施したアンケートモニター調査において、「ご自身の生涯学習活動を通じて、他者とのつながりを感じていますか。」という問いに対して７割の人が「わからない」「あまり感じていない」「感じない」と回答している。つながりを築くことは重要であるとはいえ、現状を見るとつながりを築けていない人が多いとみることができ、委員のみなさんが感じている、つながりの希薄化が数値的にも指摘できる。希薄化するつながりについて、これまでの会議で、子育てが一段落した保護者が、地域活動ではなく仕事に復帰することが殆どで、という意見があった。生涯学習活動が前提になってしまうが、令和元年に富士見市が行った生涯学習に関する市民アンケートにおいても、生涯学習活動を行っていない理由として仕事や家事、育児の忙しさを挙げている人が多く、こちらも委員のみなさんが感じていることについて、数字からも確認することができる。

4　世代をこえたつながりを築く方法

：世代をこえたつながりは重要、しかし現実問題あまり築けていないという状況を鑑みて、ではどうしたら世代をこえたつながりを築けるのか、検討していく部分になる。まず、社会教育の考え方を確認したいと考えている。社会教育とは、生涯学習活動を支援するその一環であり、人と人とのつながりを形成していくものだ。まさに社会教育の観点から、学習者の主体性だけに任せるのではなく、意図的なつながりづくりのきっかけを提供していくことが必要であることを確認する。そして、具体的にどのような取組が必要かということを述べていければと考えている。これまでの会議で、ゆるやかなつながりについて、強制力のないつながりについて、そしてできる時にやれる人でやる、という意見があった。またそれに伴い、細やかな情報発信が必要なのではないか、つながりを築くことに積極的な人、必要性を感じている人たちで求心力を高めてより多くの人を巻き込んでいく、という意見があったが、そういった意見をここで述べていければと考えている。

5　諸活動について

：各委員から、例えば子ども教室や子ども大学、子ども食堂など、様々な活動が例として話に挙げられていた。そういった活動について、４で述べる必要な取組が行われているのか、不足しているのか、検討を加える部分。

6　具体的な取組の提案

：ゆるやかなつながりについて、４で述べる。各活動に実際に取り入れるとしたら、どのような形が考えられるか検討する部分になる。

【議　長】　事務局から、提言書の流れについて説明があった。質問や意見がある方はお願いしたい。

【委　員】　流れについては理解できた。どのような居場所があれば、世代をこえた人々がつながりをもてるのか、という方向で進むのかと思ったが、途中から急にまちづくりの話が出てきた印象を受けた。イメージとしては分かりやすいが、世代をこえた居場所づくりができる、ということの提言がもう少し丁寧にできると良いのではないか。世代をこえた居場所づくりにどういったメリットがあるのか、今はどうしてうまくいっていないのか。社会教育なので、最終的には富士見市の市民のみなさんが生涯を通して学習できる環境を作ること、そのためには家庭だけではなく公民館や図書館の活用も必要で、それはまちづくりにつながる、という流れは理解できるが、急展開に感じた。

【委　員】　提言の内容として、世代をこえたつながりづくりがテーマとしてある。また、加えて社会教育活動の担い手探しもテーマになっているように感じる。世代をこえたつながりを築くことができれば、担い手も見つかっていくだろうという期待感はあると思うのだが、どちらが本当の目的なのか、意見を統一しておく必要があるのではないか。

【事務局】　これまでの会議で、担い手の問題は付随的なもので、本題は世代をこえたつながりづくりだ、という意見を受け内容を修正したつもりだった。

【委　員】　「１　はじめに」で、つながりが築ければ担い手もみつかるのでは、という話が出てきた。つながりを築き、担い手を確保したいという期待があるように思えた。

【事務局】　提言の内容が明確になるよう、修正したい。

【委　員】　担い手になるということは、他者を引っ張っていくことができる方である。富士見市の社会教育活動をより広げていくとか、加速させていくとか、そういうことができる能動的な方。機会があれば参加する、というような受動的な人と、主体的に周囲を巻き込んで社会教育活動を広げる能動的な人と、２種類の方たちがいると思う。

【委　員】　「多く指摘される担い手不足の問題」も「解決」、と言われると、確かに担い手確保に関する提言かと思われてしまう。世代をこえたつながりを築くと「解決」できるというと、それは社会的機能の問題になる。しかし「２　つながりの必要性について」はどちらかというと情の話になっており、２本柱になってしまっている。社会的機能のここに問題があるので、こういう取組をしたらどうですか、という柱。そして参加する意欲やそこにある「居場所」感が不足しているという捉え方、情の部分の柱。そこをうまくつなげられれば違和感は拭えるのではないか。関心がある人を増やしたい、すそ野を広げたい訳であるから、関心がある人が増えない理由は何か、居場所づくりに加えて、居場所に来た世代をこえた人たちがどうやったらそこで幸福感を得られるか、そのような話が盛り込めると整理されるのではないか。帰属意識が足りない、とか、なかなか参加できない、という社会的機能の問題を情の話で進めるのは難しいのではないか。したがって、「多く指摘される担い手不足の問題」「解決することができる」という話は、伝えたい気持ちは理解できるが、表

現の仕方を検討する必要があるかと考える。もしくは、提言のまとめにあたる部分で、付随的に期待できることとして指摘するなどの方法も考えられるかと思う。

【議　長】　「２　つながりの必要性」について、全体的に言い切っている印象を受けた。もう少し柔らかい表現でもいいのではないか。

【委　員】　「２　つながりの必要性」について、一人ひとりの生涯学習活動が重要というのはその通りと思う。しかし、それで良いと思ってしまっている人もいることと思う。例えば楽器演奏の例で考えると、一人で演奏することで満足するのではなく、アンサンブルという形式で、数人で一つの音楽を作っていく、その楽しさに気付いてもらうことが必要。

【事務局】　ご指摘の通りかと思う。ただ、これまでの各委員から出されたご意見から、個々人で行う生涯学習活動を否定しているわけではないと理解している。個人の活動を、「個」で終わらせることなく、他者との相互活動につなげること、またそもそもそういった活動に興味を持ってもらう働きかけが重要と考えている。

【委　員】　自分はここにいてもいいのだ、という居場所がないと、寂しかったり、孤独になってしまったりする。だから、生涯学習活動に参加して、その人が「ここにいてもいいんだ」と思うことができると、そこがその人にとっての居場所になる。「個」で終わらせないこと、もちろんそこから仲間が増えて大きなことができれば何よりであるが、生涯学習活動を通して居場所を見つけることこそが、重要なことではないか。そこから、さらに行動力がある人であれば子ども食堂を始めたり、子ども教室を始めたり、そういった活動につながればもちろんいいことだと思うが、まずはここにいてもいいのだという居場所を見つけることが何よりも重要なのではないだろうか。そして先ほど委員のお話の中にあったように、結果的に意欲のある人が集まって諸活動の担い手になっていく、そういったことにつながればなお良いことだと思う。

【議　長】　自己成長の観点、他者との相互作用、地域づくりという観点、この３つが挙げられていたが、この提示の仕方についてもう少し丁寧に説明できれば。

【事務局】　この３つの分類については、この提示の仕方でよいか、今後検討していきたい部分。

【委　員】　自己成長の観点、他者との相互作用、この流れについては大いに共感できる部分。「居場所」に入る恐怖感を取り除くのか、「居場所」に入る充足感や満足感を高めていくのか。中に入らせるための方策を言っているのか、中に入ってからの方策を言っているのか、そこをきちんと整理できると良いのではないか。人と人とが顔を合わせる中で気付けることも多い。「教えてください」、「ありがとうございます」はＩＣＴの世界ではほとんど使わない言葉。ぜひリアルな世界でつながりを持ってほしいと思う。これまでの会議の中で、すばらしい取り組みをしているのだけれども、それがなかなかご理解いただけなかったり、世代交代ができなかったり、というお話があった。どちらかというと、中に入ってからの方策、「やってみると楽しいよ」という話が必要なのかと考える。活動のす

そ野を広げることが必要なのではないか。今の人、と括ってよいかは分からないが、関心がないことについても、関心があると思わせることができれば、興味を持ってもらうことができる。「必要である」とか、「メリットがある」と思ってもらえれば、割と簡単に参加してくれる傾向がある。いい取り組みをしているのであれば、情報発信ももちろんしながら、参加すると生活が豊かになる、つまり居場所が充実する、ということだと考える。話の本筋は間違ってはいない。しかし論が飛躍しているように感じるので、もう少し丁寧に話を展開できればよいのではないか。

【議　長】　「２　つながりの必要性」の後半で説明のあった、市としてのつながりづくり推進の話について、また「３　富士見市の現状について」確認する。

【事務局】　生涯学習推進計画で挙げられているつながりを作るための施策が、これまで社会教育委員会議で挙げられてきた「ゆるやかなつながりづくり」とは異なるものになっている。なぜ「ゆるやかなつながり」が必要なのか、論じる際の一つの材料にできるかと考えていたが、委員の意見を伺いたい。

【議　長】　論拠の材料というよりも、市の計画の中でも触れられている、という軽い紹介のみでいいのではないかと考える。

【委　員】　私もそう考える。触れることは必要とは思うが、軽く触れるだけで十分と考える。

【委　員】　「３　富士見市の現状について」は、もっと前に置いた方がいいのではないか。現状を提示してから、「２　つながりの必要性」につながっていくのではないか。また説明では、最初に令和２年実施のアンケート、それから令和元年実施のアンケート、という流れだったが、これも時系列順の方がよいのではないか。

【事務局】　展開の順番について、修正したい。

【議　長】　「４　世代をこえたつながりを築く方法」については、なにかご意見はあるか。

【委　員】　内容については全くその通り、という気持ちではあるのだが、押し付けるのではなく、あくまでも市民に対して選択肢の一を提供、という形でありたい。必ずしも他者とのつながりがあってこその「居場所」ということだけではないと考えている。一人で何かに取り組むこと、それを否定するものでは決してない。その人が活動を続けていく中で、周囲の方々とつながりたいと思った時に、その選択肢を選ぶことができる、というあり方がよいのではないだろうか。必ず他者とつながっていなければならない、というわけではないので、そういう表現にならないようにしたい。もちろんつながっている方が得られるものも多いと思うが、あくまで選択肢の一つですよ、という提案の形でありたい。つながりを強いたがために、その人が居場所を失う、自己肯定感を喪失する、ということにはならないよう、表現方法を工夫できれば。

【委　員】　心豊かに安心して暮らせるまちが一番と考えている。そういったまちづくりを広げるきっかけや仕組みがあるとよいのではないか。いかに広げていくか、決して義務感が生じるような形ではなく、自ら成長したい、

良くしたい、と思ってもらえるような仕組みを作ることができれば。

【委　員】　居場所ができれば、決して強制ではなく、自然とまち自体が、人が、つながっていくものだと考える。先月地域のお祭りに参加した。３年ぶりの開催ということで、たくさんの人が参加していた。参加している人たちの顔を見ると、みんな笑顔で本当に楽しそうだった。年代をこえて多くの人が協力しながら作り上げたお祭りだったからだと思う。こういう地域に住めて本当によかったと感じている。

【議　長】　今回いただいたご意見やご指摘を踏まえて、提言の方向性を修正していく。また次回は資料を作成し、事前に送付する形を取れればと考えている。各委員におかれても、盛り込んだ方がいいと思う内容等があるか、考えてきていただければ。

【委　員】　「５　諸活動について」は、これから取材に行くのか。

【事務局】　取材は今のところ考えていない。これまでの会議の中で、様々な活動の話が出た。それをきちんと整理して取り上げていけたらと考えている。

【議　長】　各委員から諸活動について具体的なお話を伺ってきている。各活動の現状等に触れられればと考えている。

３　その他

次回会議日程

令和４年度第７回会議

日程：令和５年１月３０日（月）午後７時～

場所：中央図書館　視聴覚ホール